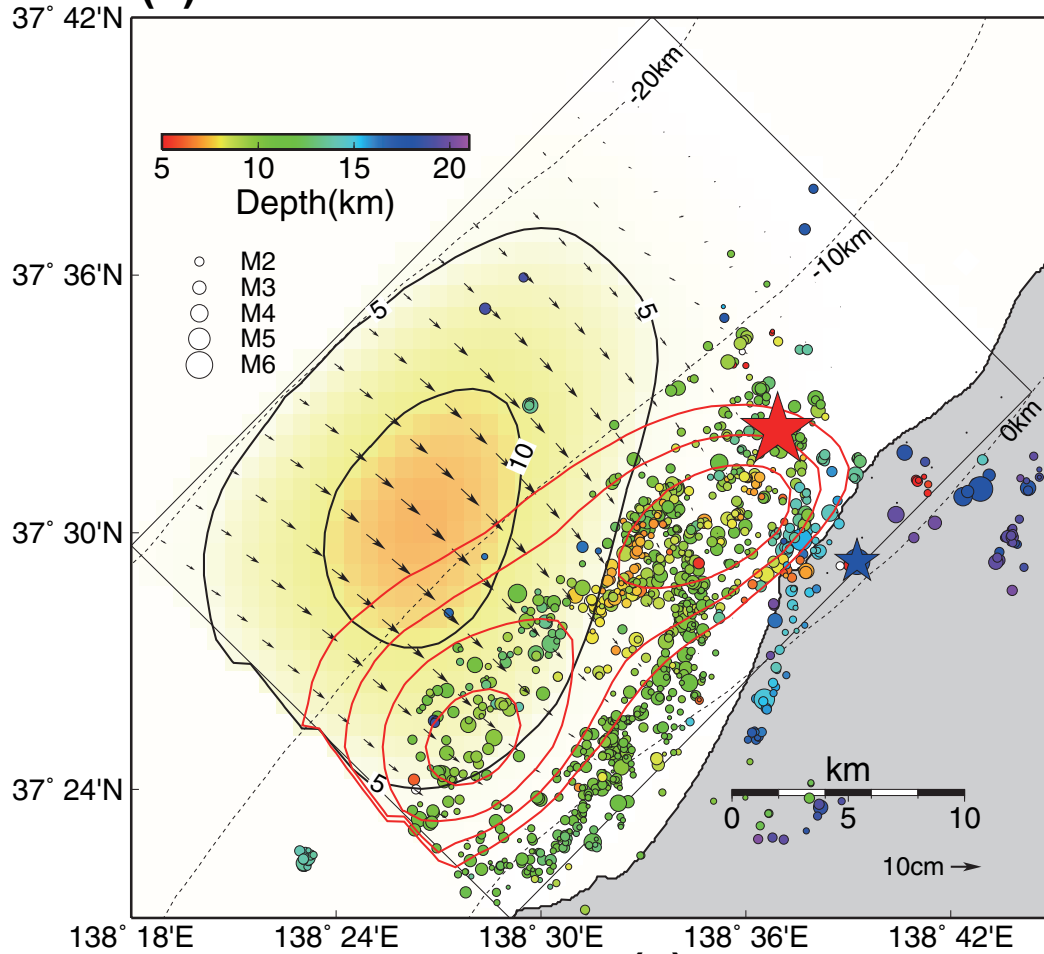
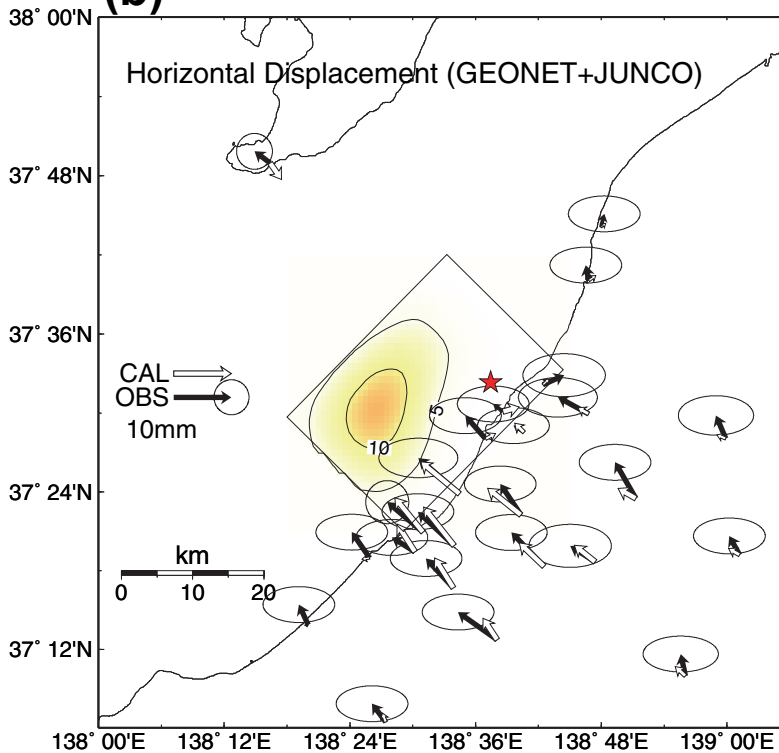


8 測地インヴァージョン解析により推定された余効滑り分布

(a)



(b)



(c)

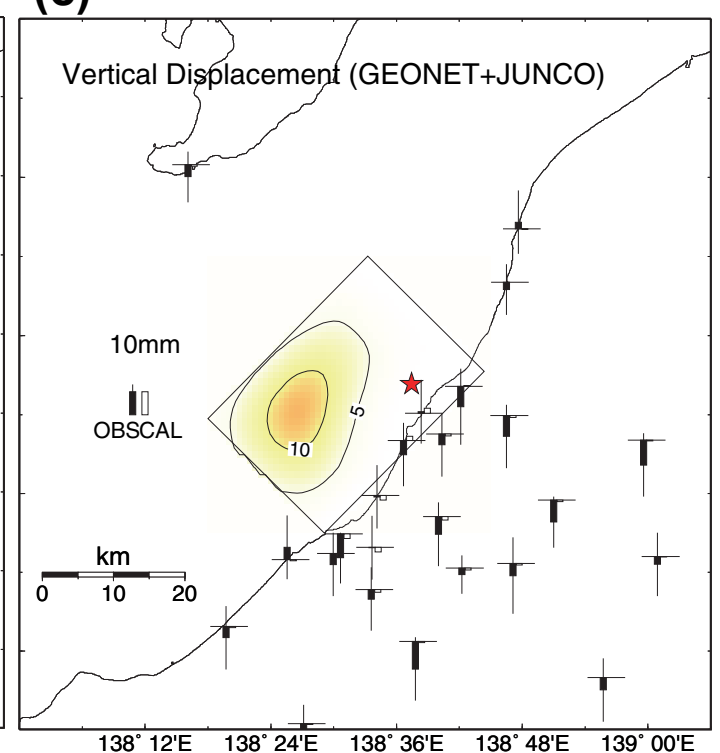


Fig. 4 (a) Yabuki and Matsu'ura (1992)のインヴァージョン法を用いて、地震後のGPS水平・上下変動成分(7月28-29日の平均値と7月17-19日の平均値を差)より推定した余効滑り分布(黒コンター:単位cm)と滑りベクトル(黒矢印). 大小の星印, 丸印は酒井(私信)によりDD法で再決定された本震, 最大余震, その他の余震の震央分布. 推定された最大の滑り量は約0.12m, 積算モーメントは 3.7×10^{17} Nmであり, Mw5.7に相当する. 赤のコンターはGPSデータから推定された地震時滑り分布(Fig.3a). (b)本震に伴う水平変動. 黒矢印が観測値(誤差楕円は 3σ の信頼限界を示す), 白矢印は(a)で推定された余効滑り分布から計算された各観測点における変位ベクトルを示す. (c)本震発生後の上下変動の観測値(黒棒)と計算値(白棒).